

令和6年度
中期計画・事業計画書

学校法人 昭和学院

- ・昭和学院短期大学
- ・昭和学院中学・高等学校
- ・昭和学院秀英中学・高等学校
- ・昭和学院小学校
- ・昭和学院幼稚園

中期計画

令和 6 年 4 月から令和 12 年 3 月

令和 7 年度事業計画

令和 7 年 4 月から令和 8 年 3 月

中期計画の策定にあたって
令和6年4月1日～令和12年3月31日
創立90周年に向けて

現在、我が国は急速に少子高齢化が進み、2041年には18歳人口は2023年度入試より27.1%少ない約80万人まで減少すると予想されています。一方、AIやビッグデータといった技術の急速な進歩により「Society 5.0」と言われる超スマート社会が到来し、人・モノ・情報が国境を越えて行き交うグローバル化が急速に進んでいます。このような社会的状況の中で、幼稚園から短期大学までを擁する昭和学院は、建学の精神、教育方針に基づき、適切なガバナンスを確保して総合学園としての使命を果たしていくために、各設置学校においてそれぞれの理念や教育目標等を定め、時代を先導し持続的な発展を牽引できる人材、社会に新たな価値を創出できる人材の育成に努めてまいります。

私たち昭和学院は、学生・生徒・児童・園児の特性や多様性を前提として、学習者視点に立ち、誰もが、いつでもどこからでも、誰とでも、自分らしく学ぶことができ、一人一人の可能性が最大限に引き出され、学生・生徒・児童・園児の一人一人の多様な幸せはもとより社会全体の幸せが実現されるように、努力をしております。

新時代にふさわしい教育を提供するべく、施設の充実を始めとし、教育改革に取り組み、質の高い教育を提供してまいります。

2040年に創立90周年を迎える私たち昭和学院は、6年間の中期的な計画のもと、学生・生徒・児童・園児・保護者の皆様をはじめとする、様々なステークホルダーに対し、教育、研究及び社会貢献の機能を最大化し、価値の向上を目指していきます。

経営陣と教職員が中期的な計画を共有し、教職員からも改革の実現に際して積極的な提案を受けるなど法人全体の取組みを徹底します。

I. 学校法人昭和学院

中期計画

【中期計画の基本方針】

1. 建学の精神と学院運営の理念

本学院では、創立者伊藤友作先生が定めた「明敏謙譲」を建学の精神として、「明朗にして健康で、自主性に富み、謙虚で個性豊かな人間」を育てます。

明敏とは活力をもって未来を拓くこと一。

謙譲とは英知をもって社会に生きること一。

建学の精神のもと本学院は、私学の特性を最大限に活かしながら、一人ひとりの個性を伸ばし、豊かな人間性を育むこと・そして、一人ひとりの可能性を大きく伸ばし、より高い自己を目指す向学心の育成に努めます。

2. 財政

堅実な経営基盤を維持・向上させるために必要な財務戦略を立案・実行します。

「経営・財政の安定なくして、教育研究の充実・発展なし」を基本理念として、中期事業計画の実現を財政的に担保すると共に、部門独立採算を厳格化し、安定的財政基盤を確立します。

(1) 入学定員の確保を前提とした学校(部門)別独立採算を厳格化し、法人全体として堅固な財政基盤を保持します。学校ごとに単年度収支を均衡させ、将来計画を実現するための資金を確保します。

(2) 補助金等外部資金の有効利用に努めます。

(3) 目的を明確にした戦略的広報活動を強化します。(入学定員の確保と寄付金の募集に繋がります)

(4) 支出の中で大きなウェートを占める人件費を適正値にコントロールする(学校ごとに各教科の授業時間数に見合った教員数を見直し、中期計画の中で実行していく)ことが本法人の喫緊の課題です。各校人件費比率を 50%未満に改善することが目標です。教育の質を担保しながらの取り組みですから、段階的に改善させることとします。具体的な数値目標を令和11年度には50%未満と定めます。

人件費比率 人件費÷経常収入(概ね50%台)

人件費依存率 人件費÷学生生徒児童等納付金 100%以下

(5) 支出に対する費用対効果の検証および業務委託費等、支出の見直しを行います。

(6) 寄付金の募集を行い、学校ごとに定めた目的のために利用します。

(7) 目標未達成部門については、中期計画の見直しによる自助努力と法人による必要な支援措置を講じます。

3. 人事

学院の発展や中期計画の達成のため、教職員がやり甲斐を持ちながら能力を生かし活躍できる人事施策を推進します。

(1) 設置校ごとに財政収支が均衡することを前提に適正な(授業時間数に見合った)人員を配置します。

(2) 永続的発展のため、有能な人材を適切な年代構成に配慮し、採用・育成するシステムを構築します。

(3) 教員研修を充実させ、授業力アップに努めます。

(4) 勤務時間に関する意識改革と時間外勤務の抑制に努めます。

4. 施設設備

教育研究の維持向上と学生・生徒・児童・園児の安全を確保するため、計画的に施設設備を整備し、環境整備を図ります。

- (1) 学校法人の施設に要する経費は人件費と並び膨大なものとなるので、計画的に整備、保守、修繕を行うものとします。
- (2) 施設計画については、各校で計画している事業を法人で調整し、各年度の予算編成の中で、実施する事業を決定するものとします。
- (3) 実施予定の事業は優先順位を決め、学院各校共同で実施することとし、最大の効果と効率化、コストダウンを図ります。
- (4) 基本金組入れ額を確保し、幕張キャンパス及び短期大学の改築・大規模改修に備えます。

5. ガバナンスの強化

本学院の教育目的及び研究目的は多岐にわたっており、それぞれに異なるステークホルダーが存在することを踏まえた上で、法人運営・教育研究活動の充実・高度化と透明性を確保します。

- (1) 自己点検や改善・改革に関わる情報及び保有する教育・研究をはじめとする各種情報を、刊行物やホームページ等を通じて積極的に公開することにより、学院内外の関係者及び社会に対する説明責任を果たします。
- (2) 全ての教育・研究活動、業務に関し、法令、寄附行為、学則並びに諸規程を遵守するよう組織的に取り組みます。

令和7年度事業計画

①財政の健全化への取り組み

インフレや円安の影響により、学校運営にかかるコストが上昇しています。

中でも、教育資材の高騰は喫緊の課題であり、教科書や教材、実験機器、IT 機器（タブレットやPC）などの価格が上昇しています。

授業料の引き上げを検討する学校も増えていますが、それによって生徒募集に悪影響を与える可能性があり、難しい判断です。

そこで、以下のように対応します。

- ・学校経費の支出と受益者負担分を明確化します。(受益者負担分が過多になると募集に影響)
- ・経営改善計画の遂行を推進します。
- ・学校ごとに各教科の授業時間数に見合った教員数を見直し、採用事務にあたります。
- ・教育研究経費等、支出（委託契約を含む）の見直しを行い経費の削減に努めます。
- ・補助金の積極的、効果的な利用に努めます。
- ・授業・業務管理の一層の ICT 化を推進し、印刷・郵送コストの削減に努めます。

- ・節水、節電の徹底や LED 化の推進により、光熱費の削減に努めます。

②時間外勤務削減への努力

- ・業務の見直しと改善を行い、職員配置の最適化を図ります。
- ・1 年間の変形労働制を維持し、労働時間の柔軟性を保ちます。
- ・DX（デジタルトランスフォーメーション）化推進による情報資源の共有と業務の効率化を図ります。
- ・仕事と育児の両立が可能となるよう、育児・介護休業法など関連法令への対応を通じて柔軟な働き方の実現に努めます。

③昭和学院のブランド力向上

出生率の低下が続き、学生・生徒数の絶対数が減少しています。万が一定員割れが発生すると、学費収入が減少することは言うまでもありません。

そのような状況の中、学校間の競争は激化しており、生徒獲得のために特色のある独自のカリキュラム（IT 教育、バイリンガル教育、STEAM 教育など）を強化することにより学生・生徒を確保することができても経営負担が増大するという、コスト増と生徒数減少の「二重の課題」に直面しています。

このような状況において、より一層のブランド力向上が欠かせないことから、以下のように対応を進めます。

- ・新しい時代に適した戦略的広報活動を充実させ、競合他法人（他校）との差別化を図ります。
- ・IT 教育、バイリンガル教育、STEAM 教育などの特色あるカリキュラムを導入し、さらなる魅力向上を進めます。
- ・法人、各学校ホームページにて、最新の教育活動の情報発信に努めます。
- ・SDGs への取り組みとその教育的成果を公表します。
- ・90 周年に向けて、学院の展示室のリニューアルを段階的に進めます。

④ガバナンス強化とコンプライアンスの遵守

ガバナンス強化とコンプライアンスの遵守は、学院の信頼を守り、長期的な成長を支える重要な要素です。適切な管理体制を整備し、職員一人ひとりが高い倫理観を持つことが求められます。

⑤教育環境の維持改善

少子化に対応しながら、入学者数を維持または増加させる施策の 1 つとして、教育環境の維持改善に一層努めます。

- ・施設設備の計画的な更新を行います。

- ・LED 化を推進します。
- ・近い将来の改築、大規模改修のための資金の確保に努めます。
- ・秀英中学高等学校のトイレや教室の改修を進めます。
- ・寄付金募集の広報活動を強化します。

⑥優秀な教員の採用強化

これまでの採用手法を見直し、採用ルートの多様化を取ることが求められます。

具体的には、以下のような方策を検討します。

- (1) 大学との連携、インターンシップなど
 - (2) SNS・オンラインの活用で昭和学院の教員のやりがいや、魅力を発信するなど
教員の「働きやすさ」と「キャリアの魅力」を強調
 - (3) 転職者・キャリアチェンジ希望者の受け入れ
- ・採用基準の明確化を進めます。

⑦秀英小学校・幼稚園の新設

昭和学院小学校・幼稚園での実績を活かし、かつ、保護者や地域の教育に対する更なるニーズに応えることを目指して、昭和学院秀英小学校・幼稚園を開設します。

- ・幕張に土地を取得し、現在建設計画の立案などを進めています。
- ・小学校と幼稚園を併設することで、以下のような幼少連携の効果を目指します。

(1) 園児との交流活動

共に活動することを通して、児童は幼児に伝わる言葉遣いや振る舞いを意識し、思いやりの心を育んだり、自分の成長を感じたりすることができます。また、幼児は小学校生活への希望をもつことができます。

(2) 教職員の交流

教育内容や方法、幼児・児童の理解などを深めたり、幼稚園 3 年間と小学校 6 年間の 9 年間で長期的に捉えて各々の役割を再認識したり、一貫教育の充実を図ったりすることができます。

(3) 幼小の架け橋プログラムの実践

昭和学院秀英幼稚園では、英語教育、読書教育、体力づくりを教育の柱としています。この幼稚園の理念を受け、その架け橋となる教育を行いながら、幼小連携としての一貫性と継続性を確保します。

中期計画

令和7年4月から令和12年3月

令和7年度事業計画

令和7年4月から令和8年3月

令和7年3月21日

学校法人 昭和学院

Ⅱ. 昭和学院短期大学

中期計画

【中期計画策定の目的】

少子高齢化、情報化、グローバル化が進展する時代にあつて、明敏謙讓の建学の精神の下、常に社会の要請に則した新しい教育を心がけ、真に社会に貢献できるスペシャリストを育成する。

また、SDGs の達成に向けた教育・研究を推進するとともに、市川市との包括連携協定や大学コンソーシアム市川の協定に基づき、地域社会の課題解決に向けた取組を行う。

【基本方針】

1. 学生ひとり一人を大切に時代の要請に則した教育
2. 国家資格をはじめ社会で役立つ資格の取得
3. 就職率 100%と専門性を生かしたスペシャリストとしての活躍
4. 地域に密着した社会貢献

【計画概要】

1. Society 5.0 に対応した質の高い教育の実現
2. 学生募集の強化
3. 就職支援とキャリア教育の推進
4. 地域社会への貢献

【目標概要】

Society5.0 に向けた教育の質の向上を担保するために、教育設備の更なるICT化や、図書館、教務、入試、就職支援システムの高度情報化等と取り組む。また、施設・設備を更新して、学生、教職員の安全を担保する。

高大連携、企業とのコラボレーション、アクティブ・ラーニング等を通して、社会の要請に即したカリキュラムを実施する中で、各学科・専攻の柱となっている主要な資格教育の充実と、その取得率の向上及び資格を生かした着実な就職を継続する。

市川市の現代的課題である食育・子育て支援や街づくり、文化・教養、防災等の分野で市川市との包括連携協定、及び大学コンソーシアム市川を視野に実りある地域貢献を行っていく。

また、持続可能な教育研究活動を行っていくために、学生定員の確保と収支のバランスをとる政策を実行していく。

【事業計画】

短期大学全体

事業	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度	令和 11 年度
施設・設備の修理	○	○	○	○	○
入試、広報、就職活動の Web 対応	○	○	○	○	○
メディア室 LL 施設見直し(計画、準備、導入)	○	○	○	○	○
eラーニング検討・更新	○	○	○	○	○
図書館次期システム導入	○	○	○	○	○
Society5.0 に向けた学修環境整備	○	○	○	○	○
数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定	○				
私立大学等改革総合支援事業応募	○	○	○	○	○
市川市との包括連携協定に基づく事業	○	○	○	○	○
大学コンソーシアム市川連携事業	○	○	○	○	○
定員確保	○	○	○	○	○
就職率 100%の達成	○	○	○	○	○
卒業生キャリア支援事業実施	○	○	○	○	○

人間生活学科キャリア創造専攻

事業	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度	令和 11 年度
ブライダルプロジェクトの実施	○	○	○	○	○
TOEIC500 点以上の取得者を増やす	○	○	○	○	○
コースの学びや資格を生かした就職者を輩出	○	○	○	○	○
就職率 100%の達成	○	○	○	○	○
産学連携教育実施	○	○	○	○	○
IT・ビジネス資格実施	○	○	○	○	○
グラフィックソフトの更新	○	○	○	○	○
カリキュラム検討	○	○	○	○	○
専攻の定員増(40 名)を申請			○		
40 名の定員増の実現					○
ファッション・ブライダル系資格の実施	○	○	○	○	○

人間生活学科こども発達専攻

事業	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度	令和 11 年度
プラスα 探究コースから新たな学びのスタイル へ発展	○	○	○	○	○
公務員保育士合格者数を定員の 1 割以上を 目指す	○	○	○	○	○
認定絵本土資格の取得	○	○	○	○	○

保育士資格、幼稚園教諭の資格取得率 90%以上を目指す	○	○	○	○	○
保育士・幼稚園教諭としての就職率の向上	○	○	○	○	○
就職率 100%の達成	○	○	○	○	○
社会人の積極的な受入:科目等履修生制度の活用、離職者等再就職支援	○	○	○	○	○
保育ICT及びプログラミング教育の充実	○	○	○	○	○
地域子育て支援拠点事業の充実	○	○	○	○	○

ヘルスケア栄養学科

事業	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度	令和 11 年度
卒業生中、栄養士免許取得率 85%以上を達成する	○	○	○	○	○
栄養士免許取得者中、栄養士として(栄養士免許活用を含む)の就職率 90%以上を達成する	○	○	○	○	○
就職率 100%の達成	○	○	○	○	○
スポーツ栄養、食品企画、医療事務分野への拡充	○	○	○	○	○
社会的ニーズに適応した栄養士養成カリキュラムおよび授業内容の充実	○	○	○	○	○
管理栄養士国家試験対策講座の充実	○	○	○	○	○
食育活動による地域貢献	○	○	○	○	○
産学連携によるアクティブ・ラーニングの充実	○	○	○	○	○
科目等履修生オンライン・対面併用ハイブリット型講座の充実	○	○	○	○	○

【学生と財源の確保】

人間生活学科キャリア創造専攻の定員は 30 名、同学科こども発達専攻は 60 名、ヘルスケア栄養学科は 80 名、短期大学全体で 170 名の入学定員、340 名の収容定員である。

平成 27 年度以後生活クリエーション専攻の改革を行って志願者を増やし、ヘルスケア栄養学科の魅力度をあげて、短期大学全体としての定員を確保し、さらに補助金獲得を積極的に行うことによって収入を増やした。

その結果、令和元年度から令和 5 年度まで収容定員充足率は 100%を超えており、短期大学全体として人件費比率は 55%弱、経常収支差額は黒字を継続している。

しかし、大学、短期大学を取り巻く環境は以前にも増して厳しい状況にあり、本学も令和 6 年度の入学者はこども発達専攻およびヘルスケア栄養学科で定員割れとなっている。そこで、今後 5 年間の中期計画の目標は①キャリア創造専攻については内容の改革によって志願増が見込まれることから定員増を目指す。②全体として現在の短期大学の定員を確保する。③こども発達専攻はじめ各学科専攻は収益が担保されるリカレント教育等を導入する。④補助金を積

極的に獲得する。⑤多様な学生を受け入れるために教育内容及び教育方法に広がりをもたせる。ことで安定的な財源を確保する。

【人事計画】

(1) 教員組織

文部科学省が定める設置基準上必要な専任教員数は 16 名であるが、現状では 21 名の専任教員と 4 名の専任の助手がいる。栄養士、保育士、教員等の免許・資格養成上の基準を考慮して、令和 7 年度～令和 11 年度の専任教員数は下表を基準に、欠員ができた場合は補充する。

開講科目数が多いことから、各学科・専攻の現在の教育目的に照らして各科目を見直し、非常勤講師の削減を検討していく。

学科・専攻名		専任教員数				設置基準で定める教員数		助手	非常勤コマ数	非常勤助手
		教授	准教授	助教	計	[イ]	[ロ]			
人間生活学科	キャリア創造専攻	4	1	1	6	4(2)	4(2)	0	32.97	1
	こども発達専攻	3	4	1	8	4(2)		1	39	
ヘルスケア栄養学科		4	1	2	7	4(2)		3	21	0
小計		11	6	4	21	12(6)	—	4		1
[ロ]						—	4(2)			
合計		11	6	4	21	12(6)	4(2)	4		1
構成割合(%)		52	29	19	100					

[イ]と[ロ]は短期大学設置基準第 22 条関係の別表第一による。

()内の数字は教授の人数を示す。

(2) 事務組織

システムが自動化されてきていることから、事務作業の効率化を進め、令和 6 年度～令和 10 年度の専任事務職員数は下表を基準に、欠員ができた場合は補充するにとどめる。

	専任	兼任	計
事務職員	4	1	5
技術職員	0	0	0
図書館専門事務職員	1	0	1
その他の職員	0	2	2
計	5	3	8

【教育の質の向上を図るサイクル】

「学修成果概念図」に示されたアセスメントポリシーに則って、質の高い教育を保証するメカニズムを構築している。PDCA サイクルに則った活動を全学的に行っている。時代とともに評価項目は変化しているので、常に見直していく。

【認証評価】

文部科学省は 2016 年 3 月 31 日付で「学校教育法 110 条第 2 項に規定する基準を適用するに際して必要な細目を定める省令」を公布し、この細目省令が施行された 2018 年度から、新評価システムに基づく認証評価が実施された。本学は 2019 年度の自己点検について、2020 年 9 月に一般財団法人大学・短期大学基準協会の認証評価を受け、2021 年 3 月 12 日付で適格と認定された。7 年以内ごとに評価を受けることが義務付けられているので、次回は 2026 年度の自己点検を受けることになる。

【外部評価】

京葉瓦斯㈱、昭和学院高等学校長、県立市川昂高等学校長から本学の学修成果と教養教育について評価を受け、適切であるとの結果を得た。

令和 7 年度事業計画

【基本方針】

本学は、教育基本法及び学校教育法に基づき、「明敏謙譲」の教育理念のもと、職業または實際生活に必要な専門的学術技芸を授けるとともに、良き社会人として教養を高め、真に平和を愛好し、人類の文化及び健康福祉の向上に寄与する有為な人材を養成することを目的とする。

この目的をはたすために本学は 2 学科 2 専攻を擁し、各々の教育目的と教育目標を掲げている。

学科・専攻の教育目的

人間生活学科

人間尊重の立場から人間生活を総合的に捉えることのできる人間の育成を目的とする。

〈キャリア創造専攻〉

キャリア設計を主体的に創造することができ、ビジネス社会に対応できる人材の育成をめざす。

〈こども発達専攻〉

人間の心身の発達について理解し、他者と関わる能力を身につけた保育者の育成をめざす。

ヘルスケア栄養学科

人の健康を食と栄養の面から支援・指導できる能力を持ち、健康増進・予防医療・福祉に貢献する人材の育成を目的とする。

学科・専攻の教育目標

人間生活学科

教養科目、基礎科目、専門科目における高いレベルでバランスのとれた能力（知識・理解・技能・表現）と、それを基盤にしてより良い人間生活を目指して諸課題を解決しようとする意欲（思考・判断・関心・意欲・態度）とを自ら育み備える。

〈キャリア創造専攻〉

1. 自身の将来に向けて目的意識を持ち、キャリア設計を主体的に創造することができる力を備える
2. 消費者の立場を理解し、多様なビジネスに対応できる知識、技術を身につける

〈こども発達専攻〉

1. 人間に関わる理論を学ぶことで、精神的、身体的に健康に生きることへの問題意識を持ち、問題解決へ向けての応用能力を身につける
2. こどもたちの個性や可能性を大切にして、人格形成に関わる適切な指導や援助のできる保育力および人の気持ちへの受容・共感・支持の態度を身につける

ヘルスケア栄養学科

1. 豊かな人間性を養い、健康増進・医療・福祉に貢献しようとする姿勢を身につける
2. 専門科目の講義や実験・実習・演習を通して、人の健康を食と栄養の面から支えるために必要な高度な専門的知識・技能を身につける

本学は建学の精神に基づき、以下の通り学科・専攻ごとにディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを定めている。

①ディプロマポリシー（学位授与の方針）

人間生活学科

教養科目、基礎科目、専門科目における高いレベルでバランスの取れた能力と、それを基盤にしてより良い人間生活を目指して諸課題を解決しようとする意欲とを自ら育み備えている。

〈キャリア創造専攻〉

1. 自らのキャリアを設計し、時代の変化に即応できる力を備えている（社会人基礎スキル、思考力）
2. 消費者の立場を理解し、多様なビジネスに対応できる知識、技術を身につけている（専門的知識・技術、コミュニケーション力、実践力、向上心・責任感）

【学修成果】

評価指標	到達目標
社会人基礎スキル	生活者・社会人としてグローバル社会の中でも通用する教養やマナーが身についている
専門的知識・技術	生活を科学的に観察し理解することができ、目指すビジネス社会に対応した知識・技術が身についている
思考力	専門的知識・技術を活用して、問題解決のためのプロセスについて筋道を立てて考え、表現できる
コミュニケーション力	グループ学習や実験実習等において他者とのかかわることで他者を尊重し協力して問題解決ができる
実践力	専門的知識や技術を家庭生活や社会生活の中で活用できる
向上心・責任感	ビジネス社会の一員としての社会的役割を理解して責任ある行動をとることができる

〈こども発達専攻〉

1. 人間に関わる理論を学ぶことで、精神的、身体的に健康に生きることへの問題意識を持ち、問題解決へ向けての応用能力を身につけている（社会人基礎スキル、思考力、コミュニケーション力）
2. こどもたちの個性や可能性を大切に、人格形成に関わる適切な指導や援助のできる保育力および人の気持ちへの受容・共感・支持の態度を身につけている（専門的知識・技術、実践力、向上心・責任感）

【学修成果】

評価指標	到達目標
社会人基礎スキル	社会人としての教養・マナーを身につけ、自己理解の上で自己表現ができ、保育現場の発展に役立つことができる
専門的知識・技術	専門分野における基本的な知識・技術を身につけ、こどもたちの個性や可能性を大切にできる
思考力	人間が精神的、身体的に健康に生きることへの問題意識を持ち、知識・技術を活用して、子育てや子育ての問題解決のためのプロセスを考えることができる
コミュニケーション力	こどもの心身の発達理解を下に、子どもや保護者の気持ちを理解し、他者を尊重し、協力して問題解決ができる
実践力	保育場面において、具体的な保育の構想計画を立てることができ、知識・技術を活用して、実践できる
向上心・責任感	保育者としての役割や保育・教育理念を理解し、自分自身を高める学習や行動、責任感ある行動を実践できる

ヘルスケア栄養学科

1. 豊かな人間性を養い、健康増進・医療・福祉に貢献しようとする姿勢を身につけている（社会人基礎力、向上心・責任感）
2. 専門科目の講義や実験・実習・演習を通して、人の健康を食と栄養の面から支えるために必要な高度な専門的知識・技能を身につけている（専門的知識・技術、思考力、コミュニケーション力、実践力）

【学修成果】

評価指標	到達目標
社会人基礎スキル	栄養士・社会人として必要な教養・マナーが身についている
専門的知識・技術	食・栄養分野における専門的な知識・技術が身についている
思考力	筋道を立てて物事を考え表現できることや知識を活用して問題解決に向けて計画・準備できる
コミュニケーション力	問題解決に向けて協力して行動できる
実践力	栄養士としての専門知識・技術を活用し、実践できる
向上心・責任感	栄養士の社会的役割を理解し、責任ある行動が身についている

②カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

人間生活学科

人間生活学科の教育課程として、豊かな人間性と幅広い教養を身につけるための「教養科目」、生活者として必要な本学科の基幹となる学問領域としての「基礎科目」、専攻の教育目的を達成するための「専門科目」を配し、より良い生活の実現を目指す総合力を養う。

〈キャリア創造専攻〉

1. 自己にあった学びを体系的にできるよう配慮し、ビジネスに必要な専門知識を身につけさせる
2. アクティブ・ラーニングによる学びを取り入れ、社会で求められるコミュニケーション力や問題解決力に加えて、クリエイティブな力を身につけさせる

〈こども発達専攻〉

1. 精神の発達、身体の発達に応じた科目をバランスよく配置して、個人の発達とともにその発達を支える社会との関連を学び、人間を総合的に観る能力を身につけさせる
2. 理論、演習、実習を1年次より有機的に配置して、2年間の学びの中で、実体験を生かして理解を深め、専門職への意識の向上を図る

ヘルスケア栄養学科

1. 「専門基礎科目（必修）」で基礎的学力を養い、「専門科目（必修）」から「専門科目（選択）」へと、段階を追った系統的な学習を通じて高度な専門的知識を修得させる
2. 「実験・実習・演習」に重点を置いた実践的な学びを通して、専門的技能を身につけさせる
3. 豊かな人間性を養うための「教養科目」と高度な知識や資格を取得するための「専門科目」を置き、丁寧な個別指導を行い、個々の学生に適した学びを可能にしている

学修成果の評価についてはルーブリック評価法を取り入れて行う。履修科目の単位認定に当たっては科目の性質に応じて筆記試験、レポート試験、日常点などを適切に組み合わせて評価し、その方法と配点は開講前にシラバスに明示する。

③アドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）

人間生活学科

人間尊重の精神をもち、自らの生活の向上のために前向きに努力できる人、またはその意思のある人。

〈キャリア創造専攻〉

1. 自身の将来に向けて目的意識を持ち、キャリアを構築する意思のある人。
2. ビジネス・ファッション・ブライダル・フード・観光・エアライン・医療・教育・DXなどに興味・関心のある人

高校での学びについて

高等学校卒業程度の基礎学力（英語、数学、国語等）を身につけ、興味のあることに一生懸命に取り組んだことのある人

〈こども発達専攻〉

1. こどもを含めたあらゆる人間関係に意欲を持って、柔軟に対応できる人。
2. 人間生活を理解できる保育者となるための基本的資質（素直さ・明るさ・倫理観等）を持ち、弱者に寄り添うことのできる人

高校での学びについて

高等学校卒業程度の基礎学力（英語、数学、国語等）に加えて、社会生活を営むための基本的能力や自己管理能力を身につけている人

ヘルスケア栄養学科

1. 人の健康を食と栄養の面から支えるという目標を持ち、目標に向け努力を惜しまない人
2. 健康増進・医療・福祉に貢献できる、人間性豊かな人

高校での学びについて

高等学校卒業程度の基礎学力を身につけ、食や栄養の分野に関わる学びに興味がある人

【実施計画】

建学の精神に則り、令和7年度は下記の事業を実施する。

1. Society 5.0に向けた教育の質と学生生活環境の向上

- ①多様な学生の受入れを視野に学科・専攻の学びを広げる。
- ②キャリア創造専攻の新たな方向性を検討する。

- ③多様な学生の得意を伸ばし、質の高い **Only One** 教育を目指す。
こども発達専攻並びにヘルスケア栄養学科の保育士、幼稚園教諭、栄養士の資格の上に新たな教育を推進する。
- ④私立大学等改革総合支援事業タイプ1とタイプ3（プラットフォーム型）に応募する。
- ⑤ICT 教育の推進ー社会のデジタル化に対応して
教育コンテンツ及び教育方法を進化させ（動画、同時配信ライブ、双方向等）、デジタル社会に即戦力となり得る教育を実践する。また、令和7年度は windows10 のサポート期限が切れることからコンピュータ室のパソコンを更新する。
- ⑥産学連携教育の推進
企業との連携による共同開発事業等を通して実践力のある人材を育成する。
ANA、ソニー、マルエツ等との連携教育を推進する。

2. 学生募集の強化

- ①Web、SNS 等の活用
- ・ Web 出願、双方向型 Web オープンキャンパスを充実する。
 - ・ 短期大学のホームページに加えて、各学科・専攻のホームページを充実する。
 - ・ SNS を効果的に活用する。
- ②多様な入試を行う。
- ③高大連携事業を推進する。
- ④各学科専攻の定員を確保する。

3. 就職支援とキャリア教育の推進

- ①資格教育の充実
- ・ キャリア創造専攻では IT・ビジネス資格を導入する。
 - ・ こども発達専攻の保育士、幼稚園教諭免許状の取得率 90%以上を目指す。
 - ・ 保育士または幼稚園教諭等の保育者としての就職率の向上を目指す。
 - ・ ヘルスケア栄養学科の栄養士免許取得率 85%以上を目指す。
 - ・ ヘルスケア栄養学科の栄養士として（栄養士免許活用を含む）の就職率 90%以上を目指す。
- ②公務員対策講座、e ラーニングの実施、Web 就職活動への対応
- ・ 公務員保育士の合格率を定員の 1 割以上を目指す。
- ③魅力ある就職先の開拓と就職率 100%の達成
- ④卒業生のフォローアップ

4. 地域社会への貢献

- ①市川市との包括連携協定事業の実施
- ②子育て支援センターの継続
- ③大学コンソーシアム市川の推進
- ④離職者等再就職訓練事業に積極的に参加する。

施設整備及び修繕計画表

令和7年度

[illegible]

2025年度 専任教員時間数

学科・専攻		氏 名	前期時間割(※1)						コマ数				
			月	火	水	木	金	土	前期	後期	集中前	集中後	計
キャリア創造専	例		3	1・3・4	3	研	3・4	研	6	8.5			14.50
	1	菅沼 恵子				研	2	研	0.8	0.13			0.93
	2	阿久津 毅		研	1・2・3	1・2	1・2・3	研	8	8	0.25	0.25	16.50
	3	川田 江美	3		3	1・2・3・4・5	研	研	7.2	6.43	0.25	0.25	14.13
	4	小川弓美子	2・4	1・4	3	研	1・2・4	研	7.03	6.8	0.25	0.25	14.33
	5	藤川 尚子	3・4	3・4	2・3	研	2・3	研	7.5	5.47	0.25	0.25	13.47
こども発達専攻	1	白岩 等	1・3・5	1・3		研	5	研	6	7			13.00
	2	伊坪有紀子	1・2・3	2・4	3	1・3	研	研	6	6	1.4	2.6	16.00
	3	宇杉美絵子	1・4	1	1	1・3	研	研	6	9	0.53	0.33	15.86
	4	本蔵 達矢	2	1		研	1・2・3	研	5	6	1.25	1.78	14.03
	5	片桐 恵子	1・3・5	研		1・2・3		研	6	4	3.2	2.27	15.47
	6	島本 和恵	4	研		1・4	2・4	研	5	7.5	1.34	0.27	14.11
	7	馬場 千晶	2・4	2・3	1・2	研	1	研	6.4	4.47	1	2.53	14.40
	8	荒谷 純子	研	2・3	3	2・3		研	5	8	1.67	0.27	14.94
ヘルスケア栄養学科	1	渡邊 隆子	研		3	1・2・3	3	研	5	5.5	2.27	1.67	14.44
	2	佐野 典行	2				5	研	2	2		2	6.00
	3	加藤 智樹	2	1・2	1・2	研	2	研	6	5.5	0.86	1.1	13.46
	4	守田麻由子	2・3・4	研		1・2・4	1・2	研	6.5	4.53	1.47	1.03	13.53
	5	飛松 聡	3・4	3・4	3	研	1・2・3	研	6.5	5.97	0.6	1.46	14.53
	6	栗岡 優希	1・3・4	研	3	2	3	研	5.5	6.5	1.47	1.33	14.80
	7	佐藤 陽子	3・4	研	3	1・2・3	4	研	6.5	5.5	1.48	1.27	14.75

(※1) 後期の時間割は9月に作成。

1週間当たりの持ち時間数＝(年間合計コマ数／2)×1.5時間

Ⅲ. 昭和学院中学校・高等学校

中期計画

1. 中期計画策定の目的

2020年に創立80周年を迎えた本校は、この間多くの有為な人材を世に送り出し、伝統校としての輝かしい実績を築いてきた。この昭和学院の伝統と実績を基盤として、中高一貫教育校としての指導体制をより強固にしていく必要がある。

そこで、まず、生徒・保護者・国民の高い期待に応えるため産官学等外部機関と連携し、さらなる進学校を目指す学校として、授業力の向上を図るなど質の高い教育活動を展開し、生徒一人ひとりの学力向上、進路希望実現を図っていくことを目指す。なお、令和3年度より、産官学連携を推進しており、経済産業省からは起業家教育推進校として認定を受け、全国規模のイベントへの参加や、全国の先生方に向けて本校教員が起業家教育についての講演などを行った。

また、生徒の進路の保障とともに、これからますます先行き不透明で不確実な世の中になるであろう未来を生き抜いていくために必要な資質・能力の育成を重視する。生徒自身が課題を発見し、自ら課題解決に取り組んでいくような主体的な学びを実現し、たくましく学びに向かう姿勢を育ていけるよう計画的に教育活動に取り組んでいく。

2. 基本方針「どのような学校づくりをしていくか」

- (1) 将来、国際的視野を持ち、様々な分野でリーダーとして活躍するために必要な深い教養を身に付けさせるとともに、建学の精神「明敏謙譲」の態度を育成する学校
- (2) 中高一貫教育校として、教育活動の一層の改善充実を図るため、本校の教育課題を明確にして教職員の共通理解を図り、改善のための具体的方策を積極的に実践していく学校
- (3) 高いレベルの文武両道を目指す進学校として、生徒・保護者・国民の期待に応える魅力ある教育活動を実践するとともに、中学から高校への円滑な接続を図り、計画的・組織的・継続的な学習指導・進路指導を行い、生徒の進路希望実現を支援する学校
- (4) 育成したい生徒像
 - ① 最後まであきらめず自ら考え、自ら学び、自ら行動できる生徒
 - ② 高い志を持ち、学習やスポーツ、文化活動に励む「文武両道」を目指す生徒
 - ③ 自らを律することができ、人を思いやることのできる人間性豊かな生徒

3. 計画概要

- (1) 令和2年度からの5つのコース制実施にあたり、PDCA サイクルに基づき、学校全体で一体感を持ち円滑実施を図るとともに、社会の変化や大学受験システムの変化に対応しつつ生徒の進路希望を効率よく実現できるような制度となるように随時更新していく。
- (2) 組織的な進路指導
外部教育機関（大学・産業界など）を有効に活用し、中学校、高校の6年間を見通した進学指

導体制の確立とその検証を行う。

進路指導部主導で、学年や教科と連携し、定期考査、外部模試などの結果を調査分析し、生徒・教員研修へのフィードバックを図り授業・カリキュラム改善につなげるなど組織的、継続的指導を行う。さらに、ICT機器を活用して、進学に関する情報提供や生徒面談・保護者面談等を実施し、きめ細かな進学指導を実施する。

(3) 「チーム昭和」としての進学実績の向上

高い授業力をつけるために、外部教育機関（大学・産業界など）を有効に活用し校内研修の充実や外部研修への積極的な参加などを通し授業方法の改善や教材研究等に取り組む。

また、きめ細かな補習・講習の実施などにより、難関国立大学を含む国公立大学や難関私立大学に現役で合格する学力を身に付けさせ一層の進学実績の向上を図るなど、「チーム昭和」として全校的な進学指導体制を強化する。

(4) 特別活動の充実・発展

部活動・学校行事などの活動で中学と高校との一体化を図るとともに、生徒会・委員会活動の活性化により生徒の自主性・社会性を培う。また、学習との両立を図らせ、知・徳・体の調和のとれた生徒やリーダーシップを発揮できる生徒を育成する。

(5) グローバル化・国際化への取組

- ・中3「オーストラリア語学研修（全員）」R2年2月に1回目実施、R3年R4年は新型コロナウイルス感染拡大の為に中止、R5年2月に3年ぶりに2回目実施、R6年2月に3回目実施、R7年2月に4回目実施
- ・高2「IA コース海外研修プログラム（R2年度より開始予定）」：コロナのため中止→R4年11月、R5年11月、R6年11月に実施
- ・高2「台湾修学旅行（全員）」：コロナのため中止→国内修学旅行に切替え実施後は、中国との関係悪化で国情の厳しい台湾から、ベトナムへの海外研修をR6年11月に実施。
（しかし、R7年度以降は、修学旅行を「旅行」ではなく探究活動の一部として位置付け、国内で実施する。そうすることで生徒が行先を決めたり、現地での調査等を安全に行ったりすることができるようにする）
- ・R4年の夏休みには高校（希望者）のロンドン海外研修と中学（希望者）のロサンゼルス海外研修を実施、R5年R6年の夏休みは、（希望者）の中学カナダ海外研修、高校ロンドン海外研修を実施。R7年も継続して実施予定。
- ・その他、海外の学校との「短期留学制度」や「交換留学制度」の有効活用、「姉妹校」の締結など、さらなるグローバル化・国際化の進展を図る。

(6) 未来を生き抜く資質・能力の育成

各教科の学習と同様に探究活動を重視する。そこでは、生徒自らの興味・関心や各教科で学んだ学習内容をきっかけとして自分の課題意識を自覚させ、課題を追究し、課題解決に取り組ませていく。この課題解決までの過程で、課題意識の深まりを自覚したり、解決方法を真剣に検討したり、自分の考えを振り返ったりすることを具体的に体験することを通して、あきらめずに最後まで主体的に学びに取り組めるような資質・能力を育成する。上述の修学旅行の内容変更もその

一例である。

(7) 広報活動の推進

入学選抜でのレベルの高い層の生徒の獲得を目指すとともに、年間を通しての積極的な広報活動を推進する。

4. 目標概要

(1) 教員の授業力向上

①さらなる学力向上と進学実績の向上

②「校内・授業改善公開授業」の量的・質的充実（授業研究の重視）

・教員の各種研修と学力向上への新たな取組

・相互の授業参観・研究協議

・若手教師全員の「授業公開」

・ベテラン教員、名物教員による「授業公開」、「講話」

・近隣の学校とコラボした「授業公開」

(2) 5つのコース制による進学実績及び部活動の実績向上に係る検証

※5つのコース制導入7年目（令和8年度）より、コース内容の見直し

☆国公立大学合格者の割合の向上実現

☆難関私立大学合格者の割合の向上実現

☆英検合格者数の増加…中3では2級・準2級合格、高3では2級・準2級・準1級合格を

☆部活動の全国大会出場数の増加及び全国制覇

(3) 教員が授業研究や進路指導に集中できるような校務分掌の見直し・精選

☆令和7年度、8年度、9年度の3年計画で校務分掌改革の具現化

5. 人事計画

(1) 現状

【令和7年度】

令和7年度		校長	副校長	教頭	国語	社会	数学	理科	英語	ネイティブ	保体	芸術	技家	家庭科助手	情報	養護	実験助手	司書	計
中	専任常勤		1		6	6	6	4	5	4	4	1	4	1		1			40
	非常勤				2		1	1	3		2	3						1	9
高	専任常勤	1	1	1	12	11	8	10	13	3	9	2	1		2	1	1	1	78
	非常勤				5	3	4	2	7		2					1		1	28
計		1	2	1	25	20	19	17	28	7	17	6	5	1	2	3	1	3	158

※ 定年退職0人、依願退職2人 ※ 育休取得4人（R7.4～5、R7.6～、R7.4～7、R7.4～8）

※ 産休・育休 1 人（R7.6～）

- ・ここ数年、定年退職者はもとより依願退職者の出現もみられ、その補充については、各教科とも指導力を大幅に減退させぬよう、常勤・専任と非常勤をバランス良く採用していく必要がある。
- ・毎年度、学則定員を欠くことのないよう入学者を確保する必要があるが、合格者数から入学者数を見積もる困難さから、年度により学級数の増減が発生する。このため、学則定員を堅持することを念頭に置いた一定程度の教員数を維持しておく必要がある。
- ・また、若手教員の増加に伴い、産育休や育児短時間勤務による教科における持ち時数の大幅な増加がみられるようになり、数教科で非常勤講師の任用をお願いしている現状がある。

（2）令和 7 年度末以降の人事計画

- ・教科における持ち時間数の精査を行い適切な時数管理を行うと共に、退職者、産休・育休取得者、病気休暇取得者等の出現に応じて法人との連携を図りながら人員の補充に取り組む。
特に英語科の非常勤教員の割合が高いため、常勤を採用する方向で調整したい。ただ、近年教員不足の影響でなかなか英語科の教員を採用することが難しい。特に都内の私立学校と競合すると給与を理由に辞退されてしまう。対応に苦慮している。
- ・上記の人員の補充にあたっては、生徒が生き生きと学ぶことのできる緊張感のある学習環境の整備に努めるとともに、個性・感性豊かで、能力・適性に優れた生徒たちを、一人ひとりが違った光を放たれるよう丁寧できめ細かな指導のできる教師の獲得に努める。
- ・令和 6 年度まで 144 名だった昭和学院中学校の入学定員が令和 7 年度は 180 名となり（実際の入学者は 205 名）、令和 8 年度からは 210 名へと増加させる。2 年後には中学校の生徒数はこれまでよりおよそ 200 名ほど増えて全校で 630 名程度となる。そのため、中学高校で教頭が 1 人の現在の体制では校務の管理運営が難しく、令和 8 年度より教頭 2 人体制（中学校 1 名、高等学校 1 名）としたい。

（3）令和 7 年度末以降の定年退職者（65 歳）

※ 令和 7 年度末 → 2 人（理科、英語）

※ 令和 9 年度末 → 2 人（英語、国語（進路指導部長））

※ 令和 10 年度末 → 6 人（校長、副校長（英語）、音楽、理科、英語 2 人）

※ 令和 11 年度末 → 4 人（教頭（数学）、国語、体育、技術家庭）

1. 事業計画

【基本方針】スクールミッション

- 将来、国際的視野を持ち、様々な分野でリーダーとして活躍するために必要な深い教養を身に付けさせるとともに、建学の精神「明敏謙譲」の態度を育成する学校
- 中高一貫教育校として、教育活動の一層の改善充実を図るため、本校の教育課題を明確にして教職員の共通理解を図り、改善のための具体的方策を積極的に実践していく学校
- 高いレベルの文武両道を目指す進学校として、生徒・保護者・県民の期待に応える魅力ある教育活動を実践するとともに、中学→高校への円滑な接続を図り、計画的・組織的・継続的な学習指導・進路指導を行い、生徒の進路希望実現を支援する学校

スクールポリシー（魅力ある教育活動の指針）

（1）グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）

本校の育成したい生徒像

- ① 最後まであきらめず自ら考え、自ら学び、自ら行動できる生徒
- ② 高い志を持ち、学習やスポーツ、文化活動に励む「文武両道」を目指す生徒
- ③ 自らを律することができ、人を思いやることのできる人間性豊かな生徒

上記生徒像の具現化としての「3 + 1 の力」の育成

- ・考 動 力：現状を批判的に分析し、課題を発見する力
課題解決のために計画を立て、実践する力
新たな価値を創造する力
- ・対 話 力：他者を思いやり、共感する力
他者の話に耳を傾ける力
自分の考えを発信する力
- ・挑 戦 力：失敗から学び、常に前を向き続ける力
好奇心をもって自分の視野を広げる力
限界を定めずに物事をやり抜く力
- ・自らを律する力

(2) カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

☆本校は令和2年度より5つのコース制を導入しており、そのコースごとのコンセプトを示す

IA（インターナショナルアカデミーコース）：国際感覚を磨き、海外で活躍する人材へ成長する

→ネイティブと日本人教員の2人担任制。オールイングリッシュの英語授業で、ツールとしての英語の精度を伸ばす。短期留学も推奨し、英会話力を磨くとともに、コミュニケーション能力やICT活用力も育てるなど、国際人、且つオールラウンダーとしての能力を育成するための特化したカリキュラム編成を行う。

※海外大学、東京外国語大学、早稲田大学国際教養学部、千葉大国際教育部、公立の国際教養大学などをを目指す。

SA（サイエンスアカデミーコース）：「科学のロマンを追い」をコンセプトに、科学に没頭するとともに、多角的な学びと論理的に物事を見る目を養う

→科学に興味関心を持つ生徒と、それぞれの専門分野を指導する教師が一つのテーマを設定し、生徒と教師が研究に没頭することにより濃密な研究体験を重ね、最終的にはその研究成果を学会で論文として発表することをミッションとする。これによって高められた資質・能力を科学的評価の高いレベルの大学（医学や歯学、薬学、獣医学などの医療系や理工学系）への受験チャレンジにつなげていく。

GA（ジェネラルアカデミーコース）：幅広い分野をバランス良く学べる環境で未来を思い描く

→自分の好き・楽しいを学びにつなげていけるコース。生徒の興味・関心をもとに、探究学習や選択授業（マイゼミなど）等を実施して自分自身の将来について検討し、さらなる興味・関心の変容や深まりを促すようなカリキュラムを用意。多様な学習活動によって得られる「体験」を通じて、広い視野を獲得するなど自分の未来を思い描く力を身につける。自分の学びは、自分で決める。そして、オールラウンダーとして、「好き」なジャンルの進路選択にフレキシブルにチャレンジしていく。

TA（トップグレードアカデミーコース）：変動する社会のリーダーとして生きる力を磨く

→少人数制・複数担任制で一人ひとりのサポートを徹底。高い志を持つ仲間との協働学習を通じて、互いに切磋琢磨し合う中で各教科の基礎学力を向上させるとともに、思考力・判断力・表現力を磨く。また、放課後講習、特別講座などを充実させ学力を鍛え上げるカリキュラム編成を行う。

※東京大、京都大、東京科学大、一橋大の4強、国公立大医学部などの最難関大学を目指す。

AA（アドバンストアカデミーコース）：一人ひとりに必要な高度な学びをじっくり深められる

→筑波大や千葉大など難関国公立大学や早慶上理ICUなどの最難関私立大学、GMARCHなどの難関私立大学に対応したカリキュラムで、質の高い授業を実施し、希望進路の実現をサポート。一人ひとりの課題を克服できるよう、放課後の特別講座、長期休業中のハイレベルな講座開講などのプログラムでサポートする。部活動に励む者は、「高い志を掲げ、高いレベルの文武両道を目指す」

※ 令和6年度まで、SAコース以外は中学校3年、高等学校2年進級時にコース変更が可能という体制をとっていたが、令和8年度昭和学院高等学校入学生より、次のように高等学校での

コース変更の内容を変更することを令和 7 年度より本校の生徒及び保護者、そしてこれから本校を志望する生徒に告知する。

- 高校 2 年時（令和 9 年度）より TA は国立大学（共通テスト 6 科受験）進学を目指す生徒、AA を難関私立大学進学を目指す生徒のコースと位置付け、コース変更をさせる。
- さらに高校 3 年進級時（令和 10 年度）にも、自身の志望する進路の変更によって TA（国立大学進学）と AA（難関私立大学進学）間でのコース変更を認め、生徒が希望する大学受験に対応できるようにする。
- 以上のような体制とすることで生徒同士が切磋琢磨する関係を充実させ、生徒自らの目的意識で学習に取り組めるようにしていく。なお、高校 1 年時の TA コースは担任 2 人制であるが、高校 2 年、高校 3 年時の TA コースは担任 1 人制とする。

☆ また、「3+1 の力」を育成するため、次の方針に基づいて教育課程を編成・実施する。

㊦ICT の活用（ICT を活用した個別最適な学び）

クラス運営から授業まで全ての活動において ICT を最大限活用する。1 人 1 台 iPad を持ち、世界と瞬時につながる環境を通して、行動力と挑戦力を養う。また、情報モラルについて指導し、自らを律する力を養う。

※令和 6 年度より文部科学省の DX ハイスクールの指定を受けて校務及び授業の改善を推進している。

㊦国際活動（異文化理解・交流などの国際教育）

多数のネイティブの教員と共に多言語を使うことが当たり前になる環境を通して、対話力と挑戦力を養う。選択制の海外研修、1 対 1 で英会話ができるオンラインスピーキング学習などを通して、グローバルな視点での考動力を養う。

㊦自律した学習者の育成

家庭学習のサポートを始め、周りの雑音をシャットアウトできるキャレルデスクでの自習室、困ったときに支えてくれるチューター制度、70,000 冊以上の蔵書を抱える図書館の静かな環境などを通して、自らを律して学習に向かう力を育む。

㊦探究活動（探究フェスティバル）

学びの多様性・個性の多様性を探究でまとめていく。

答えのない問いに取り組む活動を通して、3+1 の力の全てを養う。年間を通して系統立てて行う探究の時間をはじめ、自分の興味関心で進めるマイゼミ、実験を重視した理科の授業、そして学校行事の中でも多様な探究活動を行っていく。

㊦自治的活動（生徒会・イベント企画部）

生徒たちが創造力豊かに意見を出し合う生徒主導での活動を支援して、3+1 の力の全てを養うとともに、保護者・地域・外部企業と連携し、生徒の自主性を育てていく。

㊦体育活動の推進（部活動）

部活動、スポーツ大会など特色ある体育活動を通し、自他を尊重して対話を重ね、自らを律する力を育み、困難に立ち向かう挑戦力を養う。

⑤特別な配慮を必要とする生徒への対応（きめ細やかさ）

教員と生徒の関係は全ての基本であり、心の通った密な関係を通して、生徒の精神的な成長を支えていく。生徒指導・面談・相談対応など、困ったらいつでも方向性を示すとともに、全体的な指導だけでなく、1人ひとりにぴったりに合った支援を行っていく。

⑥多様な評価の実施（進路実現・評価）

観点別評価の精度を高めるとともに、生徒が3+1の力を身に着けているか適切に評価するために、定期考査だけではない、各教科や学校生活の中で資質・能力ベースの多様な評価を実施していく。

（3）アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れに関する方針）

本校が育成を目指す資質・能力並びに3年間・6年間計画する教育内容を踏まえ、入学時には次のような生徒を求めている。

- ・中学校・高等学校で修得すべき基礎学力の上に、各自の心身の発達及び進路に応じて、本校で高度な学力を身に付けようとする生徒 → 一般入試 など
- ・本校で身に付ける資質・能力を発揮し、世界や地域の課題を自分の課題として、解決に向けて探究するとともに、仲間と一緒に活動しようとする生徒 → 推薦入試 など
- ・座学のみならず地域等と連携した探究活動等の多彩な活動に取り組むことを通して、理解力、思考力、協働力、探究力等を育もうとする生徒 → マイプレゼンテーション入試など

2. 実施計画

（1）さらなる学力向上と進路実績の向上

① 5つのコース制導入6年目、さらなる進学実績向上を目指す

- ・コースごとの特色あるカリキュラムを、さらにハイレベルな授業内容で盛り上げていく。
- ・クリエイティブでフレキシブルな発想での魅力ある補習・講習を実践する。
- ・コースごとの生徒一人ひとりの進路希望実現を最大限に支援する。

② 学力推移分析会（中学）・模試分析検討会・ケース会議（高校）等の精度向上を目指す

③ 授業力向上を目指した各種研究会・研修会の企画と実践

- ・教科を超えた相互授業見学を基本とした「授業研究会・研修会」の年2回開催
その際、著名な教育学者・授業実践者等を助言者とした授業研究研修会の実施
- ・さらなるアクティブラーニングの精度向上とAL研究に造詣の深い研究者を招聘しての校内研修会の実施
- ・ICTを活用しての個別最適な学びとして思考力・判断力・表現力のさらなる向上を目指す研修会等の実施
- ・進学指導先進校視察、難関大学オープンキャンパス・研修ツアー等への教員の派遣
- ・新たな高大連携に係る大学の発掘に努める。

④ 自学自習体制の確立

- ・「チーム難関国立大」「チーム難関私立大」など、各コースでの生徒相互の「学びあい」「教え

あい」による切磋琢磨の実践

- ・自習室での自学自習の習慣化とチューターによる特別講座への参加を促す

⑤ 探究学習の精度向上

- ・ 答えのない問いに取り組む活動に協働して取り組み、個々の問題意識に基づいた多様な探究活動につなげる。
- ・ 集大成の「探究フェスティバル」で、個やチームで取り組んできた探究のプロセスにおける自らの変容や探究の成果として得た納得解を自分らしくプレゼンテーションする。

⑥ 教員が授業研究や進路指導に集中できるような校務の精選

- ・ 教員の校務分掌を簡素化、集中化という観点で見直し、日々の授業準備や生徒指導、進路指導にじっくりと取り組める体制を整える。

(2) 「校内・授業改善公開授業」におけるテーマの厳選と質の向上

- ①教育研究部の管轄の下、教員の授業力向上に係る各種研修の精度の向上、学力向上策の検討にクリエイティブな発想で取り組む
- ②教員相互の授業参観と研究協議の常態化を図る
- ③近隣の中学校での出前授業に教員を派遣する

(3) 5つのコース制導入6年目での総括としての進学実績の向上に係る検証とコース制の見直し

- ① 5つ個々のコースの進捗状況の把握と課題を洗い出す。
- ② 学習指導要領の改訂に伴い大学入試の選抜方法にも変化が見られるようになった。特に顕著なことは、年内入試の総合型選抜や推薦入試の枠が大幅に増えており、一般入試の実施は難関上位大学を除くと減少傾向にあるということである。そのため、総合型選抜や推薦入試に対応できる進路指導の体制をコース毎に見直していく。
- ③ これまで TA コースでは同じクラスの中に文系理系の生徒が混在していた。また、AA コースでも国立志望と私立志望が混在していた。難関上位大学を目指す生徒たちが互いに切磋琢磨し合える学級環境を整えるため、令和9年度より TA コースと AA コースの生徒は高校2年時より国立・私立という枠組みでクラスを編成する方向で本年度よりカリキュラム等の準備を進める。

(4) 部活動のさらなる活性化

- ① 各部において、よりよい部活動の在り方を真剣に考える。
 - ・生徒と顧問とのより好ましい信頼関係の構築に励む → いじめ、ハラスメント等の厳禁
- ② 真の「文武両道」を目指す
 - ・運動部も文化部も、さらなる全国大会での上位入賞を目指す
 - ・部活動で頑張った生徒の難関大学へのチャレンジと合格を目指す（高いレベルの文武両道の体現）

- ・部活動終了後、20 時まで自習室で学習し帰宅する習慣化を図る→環境整備に励む

（５）資質・能力の高い生徒の獲得

- ① 広報部によるクリエイティブで実効性のある「戦略的募集活動」の実践
- ② 中高ともに、本校の特色ある入学試験で、豊かな個性・感性、優れた能力・適性を持つ児童・生徒の獲得を目指す

（６）高校入試のクリエイティブな改革に着手

- ① 高校入試改革準備委員会のさらなる精度向上を図る
- ② 高校・推薦入試における基準の改訂→新高 1 入学者の大幅な超過を避ける
- ③ 特色ある各コースの実践を強力に PR し、偏差値の高い生徒の獲得に注力する
- ④ 中学の学則定員増 2 年目、高校からの入学者減を視野に入れて改革を進める（あと 2 年で）

（７）安心・安全な学校づくり

- ① 生徒が安心安全で快適な学校生活を送れるよう、常時、施設・設備の点検を心がける
- ② 教師による、生徒一人ひとりに対する丁寧な観察とコミュニケーションの徹底
- ③ 教師と保護者が適切に連携を図ることによって、生徒の状況を把握

昭和学院秀英中学校・高等学校

中期計画

1 目指す学校像

令和5年度に創立40周年を迎えた本校は千葉県下では有数の進学校として評価されるまでになった。50周年を見据え、進学校としてさらなる教育の充実を目指していく。

本校が建学以来取り組んできた「質の高い授業」「きめ細やかな進路指導」「豊かな心の育成」という3つの教育活動を振り返り、その上でこれからの秀英が目指すべき学校像は「骨太な進学校」であるを考える。そのために、個々の教育活動も次の2つを目指して実施していく。

教職員も、学校運営計画のもとにベクトルを一致させ、生徒の学力向上・自律的な生活態度の育成・希望進路の実現に向け、専門職集団として協働する。

～骨太な進学校～

(1) 自主・自律の精神の育成

「自主・自律の精神」をもたせることなくして、真の進学校にはなり得ない。生徒に寄り添いながら、生徒を精神的に引き上げるために生徒より高い視点で指導することが必要である。生徒は、学習・学校行事・部活動・校外の研修等に主体的・積極的に取り組む中で成長していく。このような互いに高め合う集団づくりによって、集団への帰属意識や他者への思いやりも育っていく。

「質の高い授業」とは生徒が学びへの意欲をもつような授業であり、それを実践できることが本校の職員として必要な資質である。生徒指導の目的も自主性や自律的人間性の育成であることを踏まえ、職員全員で取り組む。

(2) 進路指導

難関国立大学への進学実績は進路指導の大きな指標である。ただし、「自主・自律の精神の育成」の上に、または同時に、進路指導は行われるべきである。

特に、中学生は協調性・集団への帰属意識・自己肯定感などの形成をまずやっていくべきであり、早期の大学受験を意識した指導は効果的ではない。中学受験の特性とも相まって、生徒や保護者は有名大学合格こそ人間を評価する価値基準だと思い込んでいる傾向があり、そのため早期に大学受験を強調することは却って進路選択への幅を狭め、意欲を削ぐ結果ともなる。

中学段階では幅広く充実した基礎力の育成が重要である。東大や難関大学の合格者数は学校評価の重要な指標となるので学校としても数字を上げたいが、中学段階の盤石な学力と学習習慣、向上心と集団への帰属意識があれば、現在の秀英のレベルから判断して十分な結果がでる。逆に、現在以上の結果を目指すためには、自主・自律の精神と姿勢をしっかりとつけさせた上で大学受験の準備に取り組ませなければ、これ以上の進学校のレベルには達しない。社会に対する関心を育み自分の将来を考えるきっかけをつくり、同時に学力の充実をはかっていく。

高校段階の進路指導は大きく2つ挙げられる。1つは、将来の自己実現に向け、自分が興味、関心を持つ分野を見つけ、それを実現していく意識を喚起する。そのためには、適切な情報提供、卒

業生や外部人材の活用、校外のコンテストや研修への参加促進などが方策となる。2つ目は、「質の高い授業」であり、前項でも書いたように、自ら学ぶ生徒を育てること。そのためには、個々の教師の授業力を教科としてマネジメントし、継承・発展させ、組織的に生徒の学力向上を図っていくことが重要である。

単に、その時の模擬試験の点数の検証だけでは進路指導としての伸びは限定的である。進路指導としての中高を通した目標と教科としての6年間の見通し、また、教科間を超えた検証と取組が必要である。

2 中期的目標と方策

(1) 進路目標

本校の発展は順調な大学進学実績向上と連動する。今後も生徒の進路目標達成への意欲と能力の育成を本校教育の基軸として進めていく。

① 大学進学合格者数（現役生） 実績と目標

	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和12年度目標
東京大学	6名	5名	6名	10名以上
京都大学	0名	3名	3名	5名以上
東京科学大（旧東工）	5名	8名	9名	15名以上
一橋大学	3名	10名	5名	10名以上
（難関4大合計）	（14名）	（26名）	（23名）	30名以上
国公立大学	70名	93名		100名以上
早稲田・慶応	80名	107名	132名	130名以上
東京理科大・上智大	117名	141名	177名	
（卒業生数）	（225名）	（250名）	（330名）	

② 方策

次世代を担うリーダーの育成を目指していく。同時に進学校としてのプライドを持って、生徒の高い進路希望を実現するため、進路部と学年、教科が連携を図りながら、全職員一丸となって取り組んでいく。

- ・探究講座の実施（年15回程度）
- ・難関大学合格プロジェクトチーム、医学部指導チームなど、チームとして全般的指導
- ・中高一貫カリキュラムによる中3からの先行履修
- ・中学段階の基礎力の養成（行き過ぎた先取りではなく、基礎力の向上を図る）
- ・高校での講習の精選化と充実
- ・卒業生による進路講演会をさらに頻繁に実施
- ・教員の指導力向上の研修の推進（予備校や大学主催の研修会参加、他校の授業見学と交流）
- ・自学自習の姿勢の育成 自律学習室（7時～18時）と図書館の自習室（～20時）の活用
- ・卒業生がチューターとして質問に応え指導する自学自習室を設置

(2) グローバル教育

① 語学研修・海外研修

【中学校】英語の楽しさを理解し、英語習得に対するモチベーションアップを目的とする。

中学1年 TGG 研修（全員）

中学2年 ブリティッシュヒルズ（福島）での宿泊研修（全員）

中学3年 北米語学研修（希望者120名、カナダ・アメリカでホームステイ）

中学1年～高校2年 POWER IN ME

（希望者、3日間、外国人留学生との交流による語学研修）

【高等学校】 多様性の理解と文理融合の学問的視野の拡大を目的とする。

高校1年・2年（希望者）

・マレーシア・スウィンバーン工科大学海外短期研修

（30名、2週間、大学での語学研修、現地大学生によるサポートと交流）

・カリフォルニア州立大学イーストベイ校海外短期研修

（30名、8日間、大学での語学研修、シリコンバレーと連携したアントレプレナーシップ研修、スタンフォード大学訪問・交流）

② 神田外語大学の講師による語学講座

・海外大学進学プログラム

（海外大学進学志望者向けの対策講座と進学サポート）

・英語講座 Academic Reading & Writing

（神田外語大 ALT による講義、年間15回）

③ 帰国生のために英語の放課後補習（帰国生でなくても英語の実力の高い生徒も参加可能）

④ 海外大学との指定校推薦協定締結

令和6年度はニューヨーク州立大学オスウィーゴ校と協定を締結した。本校が推薦する生徒が大学に進学でき、奨学金が付与される。カリフォルニア州立大学イーストベイ校とも協定締結予定。

(3) 理系教育の充実

・SSH導入に向けての態勢作り

・高2理系で理数探究授業を実施

・高校3年の私立文系志望の生徒にも数学の履修を促進（文理融合の推進）

・数学、科学、情報など各種オリンピックの成果向上

・千葉大学アセントプログラムなど、大学が実施する理系プログラムへの参加促進

・STEAM教育の推進

・理系教育のための人材の確保と教員の研修

(4) 各種オリンピックや全国大会などへの参加促進

・学問への興味を喚起し、探究や各種大会出場が学びをさらに高める相乗効果をねらう。

・「秀英探究プロジェクト」など、生徒自らが学びの面白さに向かう姿勢を育成する。

- ・数学・地理・情報・科学オリンピック、模擬国連大会やディベート甲子園、ストックリーグなど、全国大会出場の実力を養成し、挑戦の意欲を伸ばす。

(5) 校外学習（修学旅行）

「日本の伝統文化理解」と「平和教育の推進」を目的として設定する。

【中学3年 校外学習】

〔目的〕日本の文化・伝統の中心地である京都・奈良で、日本文化を体感し学ぶ。

中学3年生：京都・奈良修学旅行（2泊3日）

【高等学校 校外学習】

〔目的〕戦争の悲惨さと平和の尊さを学ぶ。高校1年では戦争の被害者という視点、

高校2年では敵・味方という単純な図式では推し量れない戦争の悲惨さを理解する。

高校1年 広島平和学習（1泊2日）

高校2年 沖縄修学旅行（3泊4日）

(6) 広報活動の推進

千葉県だけではなく、東京からの受験生を増やすために広範な広報活動を実施する。

塾や受験関係機関からの情報収集力を上げるとともに、効果的な広報活動をするための連携を強化していく。

3 人事計画

(1) 現状

- ・開校当初に採用された教員の定年退職が続いている。その補充について、各教科それぞれが全体としての指導力を減退させぬよう、常勤・専任と非常勤をバランス良く採用していく必要がある。
- ・学則定員を大幅に上回った状態は問題であるが、生徒数に応じて進学実績の数値に影響するため、学則定員を欠くことのないよう入学者を確保する必要がある。また、合格者数から入学者数を見積もる困難さから、学級数の増減が発生してしまう。このため教員数も一定程度の教員数を維持しておく必要がある。
- ・男性教員の育休や育児時間の取得も特別なことではなくなった。それに対応できる人員の確保が急務である。
- ・1クラスの人数は中学、高校とも35～40名となるように構成していく。

(2) 計画

- ・退職補充については、当該教科内の人事バランスを考慮するとともに授業の持ち時間数の精査を行い、常勤か非常勤かを判断していく必要がある。
- ・民間企業の待遇改善が進む中、優秀な教員の確保は年々難しくなっている。退職者、産休、育休取得者、病気休暇取得者等の出現に応じて法人との連携を図りながら人員の補充に取り組む。

【令和7年度教職員】

令和7年度		校長	副校長	教頭	国語	社会	数学	理科	英語	A LT	保健	芸術	技家	情報	養護	実助	司書	事務	計
中	専任常勤		1	1	6	4	6	4	6		3	2	2		1			1	37
	非常勤					3		1		1									5
高	専任常勤	1	1	1	7	7	10	8	9		7			1	1	1	1	2	57
	非常勤				2	1	1	5	1	1		1	1						13
計		1	2	2	15	15	17	18	16	2	10	3	3	1	2	1	1	3	112

定年退職3(数学、理科、国語) 常勤講師退職2(理科・国語)

【令和7年度以降の定年退職者】

令和7年度末 定年退職6(国語1・数学2・英語・美術・司書)
 令和8年度末 定年退職2(教頭〔音楽〕・理科)
 令和9年度末 定年退職3(数学・英語・保健体育)
 令和10年度末 定年退職5(国語・英語・理科・保健体育2)
 令和11年度末 定年退職1(中学副校長〔国語〕)

令和7年度事業計画

1 スクール・ミッション

生徒の「自己実現」を支える教育を実践する。「自律した自己」「他者の尊重」の意識と「学力と教養」を身につけさせ、生徒自らが自分の進路を指向する資質を養い、次世代をリードし活躍する人材を育成する。

スクール・ポリシー【基本方針】

アドミッション・ポリシー ～求める生徒像～

- ・本校の使命や教育方針を理解する生徒
- ・明るく健康的な生活に努め、他人の立場と意見を尊重できる生徒

- ・勉強に励み、より優れた自己を目指して新しい可能性を求められる生徒
- ・自分で主体的に考え、積極的に行動できる生徒

カリキュラム・ポリシー ～教育の方針～

本校の建学の精神である校訓「明朗謙虚・勤勉向上」のもと、将来、地域社会・日本・世界に貢献する人材育成を目指し、そのための基礎作り・能力開発を行います。その実現のために以下の教育を行います。

- 1 思考力・判断力・表現力の育成、ひいては課題解決能力の育成を図るため、中学校からの入学生には6年一貫教育のメリットを活かしたカリキュラムを、高等学校からの入学生には3年間の効率的・効果的なカリキュラムを編成し、高い学力が身につく質の高い授業を行っていきます。
- 2 次世代を担う人材の育成を念頭に、異文化を尊重する理解力、語学力、グローバルマインドセットを養うプログラムを積極的に組み入れていき、ICT・AI化への対応を促す教育を拡充していきます。
- 3 探求的な見方や考察を促し、コミュニケーション力、学びや問題解決を支えるリテラシー、プレゼンテーション力を身につけ、自らが課題を発見し、解決する意欲と能力を育みます。
- 4 一人ひとりの可能性を最大限に引き出すことを目標に、キャリア教育の視点にたって、系統的・組織的に、高い進路志望の実現に向けたきめ細かな進路指導を行います。
- 5 豊かな心の育成を目指し、明朗にして勤勉、豊かな人間性を育み、自主性を伸ばします。
学校行事や課外活動を通して、視野を広げ、主体性と協働性、他者尊重の精神を育み、健康的な生活を送るための体力とともに、リーダーシップを育成します。
- 6 ボランティア活動や福祉講演会などを奨励し、社会貢献の精神と高い倫理観を育みます。

グラデュエーション・ポリシー ～卒業時に身につける力～

高い学力と課題解決に主体的に取り組む姿勢を身につけ、グローバルな視野と他者尊重の精神をもって、Society5.0を見据えた次世代を担う能力と豊かな人間性を備えた人物の輩出を目指します。

2 実施計画

(1) 自主・自律の精神の育成

生徒の自主性を育む上でまず育成されるべきは、生徒の学校への愛着と帰属意識である。そこから自分達の学校を自分達で立派に守っていくという自主性が生まれ、その自主性が自律した人間を作っていく。そのためには、魅力的な授業と生徒による学校行事の運営が育成の柱となる。学校生活のさまざまな場面を活用して、自律の精神の育成に努める。

また、自学の習慣の確立は学力向上には必須であり、特に中学時代にその習慣を身につけられるように、自律学習室や自学自習室を有効活用していく。

(2) 進路指導

次世代を担う人間としての意識と能力を養う。生徒に主体的に進路を選ばせ、その実現に向かう姿勢を支えていく。

令和6年度には、「自主・自律の精神の育成」と「進路指導」について、年度当初に全職員に本年度の具体的な取組を校長に提出させ、年度末にはその取組の成果と課題を再び提出させた。計画・実行・成果を見ることで、個々の職員の意識と業務レベルを測り、教育力の向上につなげていく。2学期には校長が職員全員と面談した。

(3) グローバル化への対応

海外研修や語学講座、帰国子女への語学教育について、新たな取り組みを加え充実させる。

(4) 理系教育

グローバル化と理系教育は重要である。本校は理系志望者が増加したにも拘わらず、人材や実験環境がそれに追いついていない。特に理科教員の採用が難しくなっており、SSH導入を視野に入れて、優秀な理科教員の採用を目指す。また、実験設備についても国の補助金も利用して整備していく。

(5) 指導力の向上

令和6年2月に市川中学校高等学校に依頼し授業見学・意見交換会を実施し、6月には市川中学校高等学校から本校に授業見学に来校。このような他校との交流による研修を活発化し、教科力の向上と学校運営の改善を図る。予備校の研修だけではなく、学校訪問や研修の機会をもっと職員に与えていき、授業や学校運営に活かしていけるようにする。

(6) 教育環境の整備

校舎の老朽化（永年劣化）が進んでおり、改修工事は継続して必要である。生徒にとって安全で安心な環境を保つためによりよい環境整備に努めていく。

(7) 生徒募集・広報活動

入試広報部を中心に幅広い広報活動を継続していく。

3 令和7年度生徒数

	学 年	在籍予定数	クラス数
中学校 (定員 160 名)	1 年	1 7 4 名	5
	2 年	1 7 4 名	5
	3 年	1 7 7 名	5
高等学校 (定員 240 名)	1 年	2 6 6 名	8
	2 年	2 9 2 名	1 0
	3 年	2 5 9 名	8
計	1, 3 4 2 名 (中学 5 2 5 名 高校 8 1 7 名)		4 1

V.昭和学院小学校中期計画

【中期計画策定の主旨】

子どもたちが生きていく世の中は、不確実で予測困難な VUCA の時代と言われている。そこでは、単なる知識や技能は何の役にも立たない。AI 等が発達した世の中では、自ら考え、判断し、その結果を自分らしく表現する学び方や学ぶ力を子どもに育むことが大事になる。しかし、未来を生き抜くために必要となる資質・能力の育成は、決して簡単なことではない。学校教育の中で時間をかけて計画的、継続的に指導していくことが求められる。

また、人格形成の基礎となる初等教育においては、学び方や学ぶ力の育成とともに豊かな感性とやさしい心を育むことも大事にしなければならない。昭和学院小学校では、これまでも教育課程の編成等を通して重視してきたことではあるが、改めて中期計画を策定することによって、子どもたちに未来を豊かに生きていく上で必要となる力を育む教育活動を充実させていく。

【中期計画策定の目的】

- (1) 建学の精神「明敏謙譲」の態度を育成する。
- (2) グローバル化社会を生きていくための基礎となる体験を保証し、異文化を尊重する態度や英語力を育成する。
- (3) 自ら考え、判断し、表現する学びを通して、様々な分野に活用できる、生きて働く学力を身に付けさせる。
- (4) 初等教育として相応しい教育活動の一層の改善充実を図っていく中で、本校の教育課題を明確にし、適切に対応していく。

【中期計画策定の基本方針】

中期計画の目的を達成するため、以下の6つの項目を基本方針として取り組んでいく。

- 子どもの豊かで深い学び
- ICT 化の推進
- グローバル化の推進
- 学習環境の構築
- 教師の指導力向上
- 広報活動の強化

【目標概要】

学校の使命は、子どもが実社会を生きていく力を育てること、世の中で役に立つ人づくりをすること、子どもが自分らしく自らの人生を切り拓いていけるようにしていくことにある。子どもたちが、心身ともに健康で豊かな人間性をもつ人として成長するように支援するとともに、生涯に渡って学び続けることのできる資質を身につけることを目指し、

「学び続ける力とやさしい心」をもった子どもの育成を目標に教育活動を進める。

◎昭和学院 建学の精神『明敏謙譲』

明朗にして健康で自主性に富み、謙虚で個性豊かな人間を育てる

◎昭和学院小学校教育目標

『学び続ける力とやさしい心』をもった子を育む

児童像 ① よく学ぶ子ども

② 心豊かでやさしい子ども

③ 明朗で健康な子ども

学校像 笑顔があふれる学校

伝統を大切にしながらも進化する学校

【事業概要】

(1) 子どもの豊かで深い学びの構築

- ・ 1クラス 40 名(2 クラス)→1 クラス 35 名(3 クラス)を 2021 年度より 6 年計画で実現させ、よりきめ細かな指導を行う。

(2026 年度完成)

令和 7 年度児童数

学年	組	定員	実児童数
1 年	1 組	35	33
	2 組	35	33
	3 組	35	32
2 年	1 組	35	36
	2 組	35	36
	3 組	35	36
3 年	1 組	35	37
	2 組	35	36
	3 組	35	37
4 年	1 組	35	37
	2 組	35	36
	3 組	35	36
5 年	1 組	35	34
	2 組	35	35
	3 組	35	35
6 年	1 組	35	27
	2 組	35	27
	3 組	35	26
合計		630	609

- ・ 個別最適な学びと協働的な学びを適切に組み合わせた授業を実現する。
- ・ 豊かな心と体を育てるために人権教育、キャリア教育、福祉教育、食育、安全教育等をさらに充実させる。

(2) ICT 化の推進

- ・ ICT を有効に活用した授業改善(児童一人につき一台のタブレット端末)を推し進めるとともに、その効果を検証する。
- ・ グローバル・情報化社会 に生きる子どもたちに必要なスキルを取得させる。
例) ロイロノートを活用した課題解決の工夫、欠席児童にオンラインで授業を配信
- ・ プログラミング教育をこれまで以上に充実させる。

(3) グローバル化の推進

- ・ 英語の授業、イングリッシュキャンプをさらに充実させる。
- ・ オーストラリア語学研修（ホームステイし、オーストラリアの小学校との交流〈希望者 20 名〉）を夏休みに実施する。
※英語(外国語)で多様な人々とコミュニケーションを図ることができる能力を重視
- ・ SDGs 教育に取り組み、世界に目を向ける。

(4) 学習環境の整備

- ・ 体育館へのエアコン設置（令和 6 年度完了）
- ・ 照明の LED 化

(5) 図書館教育の充実

- ・ 各教科との連携を図る。
- ・ STEAM 教育の充実に向けて関連図書の整備を推進する。

(6) 教師の指導力向上

- ・ 授業研修のさらなる充実を図り、授業力の向上を目指す。
算数、国語、道徳、専科部会のより一層の充実
教育先進校の視察
講師を招いての授業研究会の実施
- ・ ICT を活用した授業改善のための研修会を行い情報共有していく

(6) 広報活動の強化

- ・ 私立小学校進学者の定員確保をめぐり私立小学校間の競争が激化している。それゆえ広報活動の強化が急務である
- ・ ホームページの充実。日々の教育活動をまめに更新し常に新しい情報を提供
学校行事等オンラインによるリアルタイムでの配信
- ・ 学校説明会の充実
オンライン説明会（4 月）
年間全 5 回のオープンスクールの実施（5 月、6 月 2 回、9 月、1 月）
体験教室（6 月）、ナイト説明会（7 月）の継続実施
幼児教室・幼稚園対象の説明会を 2 回実施（5 月、1 月）
幼児教室の模擬試験会場として校舎を使用してもらい、試験実施中に学校説明を積極的に行う。

【人事計画】

(1) 現況

2024年度は、校長1名、教頭2名、顧問1名、教諭20名、養護教諭1名、常勤講師12名、非常勤講師6名（養護教諭1名）で教育活動に臨んだ。また、常勤職員6名、非常勤職員8名で事務、教育相談、学童等の職務に当たった。2025年度は、校長1名、教頭2名、顧問1名、教諭22名、養護教諭1名、常勤講師10名、非常勤講師8名（養護教諭1名）で教育活動を充実させる。また、常勤職員7名、非常勤職員10名で事務、教育相談、学童等の職務に当たる。

(2) 採用計画

① 令和6年度

図書館教育、STEAM教育の充実を図るため、司書教諭として非常勤講師を1名採用した。また、低学年の児童に対する対応を充実させるため非常勤講師を1名採用した。

② 令和7年～令和9年

専科(理科、図工、体育、音楽、英語)の授業数が増えていくことから常勤、または、非常勤で補う必要が出てくる。

③ 令和7年～令和10年

昭和学院秀英小学校開校に向けて、専科教員（音楽、図工、英語、家庭科、体育）や担任教員及び学童職員を補充していく必要がある。常勤講師の勤務実態を考慮して採用を検討しなければならない。

(採用教職員予定)

	R 7	R 8	R 9	R10	R11	R12
専任教諭(常勤講師含)	2 (担任)	1 (担任)	1 (担任)	1 (担任)		
非常勤講師	1 (図工)	1 (体育)	2 (音楽、英語)			
職員(非常勤含む)						

○教職員の構成

(令和7年)

	校長	教頭	担任(副担任)	専科教員 理科 英語 音楽	養護	図書館	教育相談	事務	学童	ALT
専任・常勤	1	2	19	12	1			1	6	2 (1)
非常勤			3	2	1	2	1	2	7	

()は派遣

(令和 8 年)

	校長	教頭	担任(副担任)	体 専 図 科 英 理 算 音	養護	図書館	教育相談	事務	学童	ALT
専任・常勤	1	2	21	12	1			1	6	2 (1)
非常勤			3	3	1	2	1	2	7	

()は派遣

(令和 9 年)

	校長	教頭	担任(副担任)	体 専 図 科 英 理 算 音	養護	図書館	教育相談	事務	学童	ALT
専任・常勤	1	2	22	13	1			1	6	2 (1)
非常勤			2	3	1	2	1	2	7	

()は派遣

(令和 10 年)

	校長	教頭	担任(副担任)	体 専 図 科 英 算 理 音	養護	図書館	教育相談	事務	学童	ALT
専任・常勤	1	2	23	13	1			1	6	2 (1)
非常勤			2	5	1	2	1	2	7	

()は派遣

(令和 11 年)

	校長	教頭	担任(副担任)	体 専 図 科 英 算 理 音	養護	図書館	教育相談	事務	学童	ALT
専任・常勤	1	2	24	13	1			1	6	2 (1)
非常勤			2	5	1	2	1	2	7	

()は派遣

(令和 12 年)

	校長	教頭	担任(副担任)	専科 図英算 理音	養護	図書館	教育相談	事務	学童	ALT
専任・常勤	1	2	24	13	1			1	6	2 (1)
非常勤			2	5	1	2	1	2	7	

()は派遣

【基本方針】

○グラディエーションポリシー：本校の児童に学びの中で修得してほしい力・態度

小学校学習指導要領を踏まえて、次の資質・能力を中心とした、生涯にわたって学び続ける力の基礎を身に付けさせます。

- ・確かな学力と創造性、豊かな感性
- ・人権尊重の精神と学びを支える力（人間関係、コミュニケーション能力）
- ・主体的・積極的に活動に取り組み、自ら課題を見出し解決する力
- ・相手を思いやるやさしい心、公共心

○カリキュラムポリシー：教育課程の編成・実施方針

小学校学習指導要領に則り、人間として調和のとれた子どもの育成を目指し、適切な教育課程を編成するとともに、地域の先進的な教育モデルとなるべく先行的な実践にも積極的に取り組みます。その際、次のことがらを教育目標として、教育環境を整え、教育課程を編成します。

- ・初等教育段階での「基礎・基本」の確実な理解とそれを活用する力の育成
- ・理科、数学教育を中心としたSTEAM教育に言語教育（Language）を加えたSTLEAM教育の推進
- ・子どもの学習状況に応じた学力の伸長（ICTなどを活用した個別最適の学びの実現）
- ・主体性と協調性を育み、国際社会で活躍できる資質・能力の養成
- ・相手に伝えたい自分の考えをしっかりと表現できる英語力の育成

○アドミッションポリシー：入学者受け入れの方針

本校は、子どもの個性を尊重し、それぞれのよさを伸長するとともに仲間と協力して自分らしさを磨いていくことを大事にしています。そのため、次のような子どもを入学者として受け入れます。

- ・誰とでも仲良く協力しようとする協調性のある子ども
- ・最後まで諦めずに粘り強く取り組もうとする子ども
- ・新たなことに積極的に挑戦しようとする子ども
- ・相手の話を聞き、意欲的に学ぼうとする姿勢のある子ども
- ・自分の考えを自分なりに表現しようとする子ども

【実施計画】

1. 生涯にわたって探究し続けることのできる人材の育成

- ・教育目標を「学び続ける力とやさしい心を育む」とし、生涯探究、生涯読書、生涯対話のできる素地の育成
- ・個別最適の学びと協働的な学びの適切な組み合わせの探究
- ・豊かな心と体を育てるために人権教育、キャリア教育、福祉教育、食育、安全教育等のさらなる充実

2. ICT 化の推進

- ・タブレット端末を活用した授業の更なる展開とその効果の検証
- ・IT 企業と連携した新しい授業の創造
- ・プログラミング教育の充実
- ・学校を挙げて DX の推進

3. グローバル化の推進

- ・1～6 年生の英語の授業及び、6 年生のイングリッシュキャンプのさらなる充実
- ・オーストラリアホームステイプログラムによる国際交流（夏休み）
※英語(外国語)で多様な人々とコミュニケーションを図ることができる能力を重視
- ・世界に目を向ける SDGs 教育への取り組み
- ・世界に誇る日本文化の良さの実感

4. 学習環境の整備

- ・図書館を情報センターとした STLEAM 教育の推進と各教科との連携
- ・校内照明の LED 化
- ・防犯カメラの増設など、安心・安全な学校づくり

5. 教師の指導力向上

- ・校内研修のさらなる充実（外部講師による指導）
- ・授業研究（授業公開、授業後の研究協議会）の実施
- ・教育先進校の視察（STEAM 教育、英語教育を中心としたカリキュラム研究等）

6. 児童募集・広報活動の強化

- ・少子化の中での定員の確保
- ・ホームページの改訂・充実と、恒常的な情報の更新
- ・学校説明会の充実（オンライン説明会・イブニング説明会・体験教室等の開催）
- ・幼児教室等が主催する学校説明会等における広報活動の推進
- ・千葉県私立小学校フェアへの参加
- ・昭和学院幼稚園との計画的かつ持続性のある幼小連携の強化
- ・昭和学院中学校、昭和学院秀英中学校への内部進学制度の強化

昭和学院幼稚園中期計画（R6～12）

1、主旨

昭和学院幼稚園は建学の精神のもと設立して今年 58 年を迎える。昨年まで系列校と同じ私学助成で経営してきたが、令和 6 年度より『子育て支援制度』に基づきスタートした新制度『施設型給付幼稚園』に移行した。

厳しい少子化の影響により、市川市内の幼稚園入園児は減少が続いており、本園も例外ではない。昭和学院の建学の精神の下、時代に即した教育を展開することで、保護者から選ばれる幼稚園を目指していきたい。

2、目的

時代に即した保育を展開

幼稚園教育の充実と小学校への接続

満 3 歳児入園、未就園児教室の充実

3、基本方針

昭和学院ブランドを維持しつつ、時代に即した魅力ある教育を進めていく

小学校進学に向けての保育の向上を図る

幼小の円滑な接続のために『架け橋プログラム』を構築、推進する

昭和学院小学校への円滑な内部進学を進める

4、計画概要

（1） 英語教育の充実

保護者からの英語教育への期待は益々大きくなっている。令和 6 年度より年少組の正課英語を週 1 回から 2 回に時間を増やし、課外教室に英語を導入した。

英語発表会を実施し、英語教育の向上を図る。

（2） 理数教育・プログラミング教育の充実と推進

科学教室・プログラミング教室を年長組の正課で導入し、科学的思考力を育てる。

小学校と連携し、プログラミング教育を推進していく。

（3） 小学校に繋がる学びの充実

『日本語・数』に興味を持たせ、遊びを通して学ぶ

小学校の学びに繋がる自立的・協同的な活動を構築する。

（4） 幼小の連携

『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』（文部科学省幼稚園教育要領）をもとに、小学校と連携して『架け橋プログラム』を構築し幼小の交流を推進する。

（5） 教員の保育力向上

園内研を通して保育の質を向上し、科学的思考を伸ばす保育を追求する。

ICT を効果的に使う保育を研究する。

（6） 情操教育の充実

絵画・リトミック・茶道・書道等の体験を通して豊かな情操を養う。

(7) 体力向上を推進する

体力測定を実施し体力向上への関心を高め、毎日の取り組みを推進する。

(8) 少子化対策として、こども園への移行を検討する。

(9) その他

保護者への育児向上につながる情報の提供（外部講師による講演会等）

保護者間の交流懇親に努める。

未就園児英語教室を充実する。

5, 実施計画と達成目標

(1) 令和6年度

- ・年少組の正課・課外英語の増設
- ・理数教育、プログラミング教育の充実
- ・小学校につながる学びの充実
- ・体力測定の実施と体力向上を目指して毎日の取り組みを実施
- ・保護者向け講演会の実施

(2) 令和7年度

- ・体力測定の実施と体力向上を目指して毎日の取り組みを実施
- ・理数教育、プログラミング教育の充実
- ・ICT教育の推進
- ・小学校につながる学びの充実
- ・こども園への移行を検討

(3) 令和8年度

創立60周年 記念行事を行う

年少1クラスとなった場合 ➡ 満2歳児クラス増設

- ・英語の発表会 年長・年中

(4) 令和9年度

年少・年中1クラスが予想される

- ・英語の発表会 全学年
- ・保育研修 小学校に繋がる学び
- ・週一日縦割り保育の実施

(5) 令和10年度 11、12年度

年長・年中・年少・2歳児 各1クラス

- ・日本の伝統文化 導入 (茶道・書道・剣道・和太鼓)
- ・iPadを使った活動
- ・保育研修 小学校に繋がる学び

6, 人事計画

(1) 現状と課題

令和6年度	園長	副園長	学級担任	英語	預かり保育	新任指導	未就園児教室	事務	計
兼任							2	1	3
専任	1	1	4	2	4				9
常勤			2		1				6
非常勤					1				2
計	1	1	6	2	6	0	2	1	20

・退職者（担任1名、預かり1名）・保育経験者、預かり担当の保育者の確保

(2) 計画

令和7年度	園長	副園長	学級担任	英語	預かり保育	新任指導	未就園児教室	事務	計
兼任							2		2
専任	1	1	5	2	3			1	13
常勤			2		2		1		5
非常勤					3				3
計	1	1	7	2	8	0	3	1	23

※ 副園長は継続、次の副園長へ引継ぎ、主幹・ミドルリーダーを育てる

令和8年度	園長	副園長	学級担任	英語	預かり保育	新任指導	未就園児教室	事務	計
兼任							2		2
専任	1	1	5	2	3			1	13
常勤			2		2	1			5
非常勤					3				3
計	1	1	7	2	7	1	2	1	23

※ 元副園長は新任指導と副園長のサポート

令和9年度	園長	副園長	学級担任	英語	預かり保育	新任指導	未就園児教室	事務	顧問	計
兼任	1						2	1		4
専任		1	7	2	5					15
常勤						1				1
非常勤					3				1	4
計	1	1	7	2	8	1	2	1	1	24

※ 園長は小学校校長が兼務 1クラス学級減

令和10～12年度	園長	副園長	学級担任	英語	預かり保育	新任指導	未就園児教室	事務	顧問	計
兼任	1						2	1		4
専任		1	4	2	3					9
常勤										4
非常勤					4					2
計	1	1	4	2	7		2	1		19

※ 園長 は小学校校長が兼務

7、施設設備の計画

	施設など
令和6年度	・トイレの床 改修 (補助金利用) ・階段・扉レールの補修 (補助金利用) ・園庭照明設置 (補助金利用) ・エアコン洗浄 (補助金利用)
令和7年度	・未就園児対応の環境（遊具、玩具） (補助金利用) ・ウッドデッキの一部修繕 (補助金利用) ・監視カメラの設置 (補助金利用) ・電子黒板の設置 (ICT 補助金利用) ・施設の修理（エアコンの柵等）の修理 (補助金利用) ・自然換気システム修理 (小中高と検討)

令和 8 年度	・畑の整備 (補助金利用) ・砂場の改修 (補助金利用) ・園庭斜面滑り止め板の改修 (補助金利用) ・ウォールクライミング下ゴムチップ補強 (補助金利用) ・プール用シャワー設置 (補助金利用) ・植栽整備 (補助金利用)
令和 9 年度	・テラス床板全面改修 (補助金利用) ・階段下照明設置 (補助金利用) ・植栽整備 (補助金利用) ・ホールの床一部補修 (補助金利用)
令和 10～12 年度	・エアコン随時交換 ・園舎屋根設備点検、修繕 ・園庭斜面改修

令和7年度 事業計画

昭和学院幼稚園

【基本方針】

スクールミッション

建学の精神の下、生涯にわたる人間形成の基礎を培うための教育を展開する。

『幼児期に育ってほしい 10 の姿』を踏まえて小学校との円滑な接続を図ることに重きを置いて進めていく。

- ※ 『幼児期に育ってほしい 10 の姿』・健康な心と体、自立心、協同性、道徳性・規範意識の芽生え、
社会生活との芽生え、思考力の芽生え、自然との関わり・生命尊重
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚、言葉による伝え合い
豊かな感性と表現

グラデュエーション・ポリシー

育成を目指す子ども像

『笑顔いっぱい幼稚園』

- | | | |
|------------|-------------|--------------|
| ・健康で明るい子 | ・みんなと仲良く遊ぶ子 | ・優しく思いやりのある子 |
| ・自分で進んでやる子 | ・創意工夫のできる子 | |

カリキュラム・ポリシー

実施方針

(1) 幼稚園教育において育みたい資質・能力

- ・知識及び技能の基礎
- ・思考力・判断力・表現力などの基礎
- ・学びに向かう力、豊かな人間性

(2) 小学校教育との円滑な接続

○「健康で明るい子」を育てる

- ・多様な経験を通して豊かな感性を伸ばす
- ・遊び、運動、食育を通して体力づくり

○「優しく思いやりのある子」を育てる

- ・人への愛情や信頼感を育てる
- ・身近な自然や物に関心を持ち、触れて感じて理解することで豊かな人間性を育む

○「自分で進んでやる子 創意工夫のできる子」を育てる

- ・自然など事象などへの興味や関心を育てる
- ・子どもの「できた!」という達成感を持たせる

○アプローチカリキュラム

- ・協同的な遊びや体験の充実
- ・学びの芽生えを大切に活動の充実
- ・スタートカリキュラムへつなげる

【実施計画】

1、教育活動の充実

- ・英語教育の充実 ➡ 年少週 2 回に (年中長 週 5 日)
- ・日本語・数の教育の充実 ➡ 週1～3日 学びの時間増設)
- ・科学的思考力を育てる ➡ 科学教室、プログラミング教室開設
- ・プログラミング教育の充実
- ・体力向上に向けた活動の充実
- ・情操教育の充実 専門の講師による指導 (リトミック・ダンス・茶道等)

2、教員の保育研修

- ・園内研修を通して指導力の向上を図る

3、行事の充実

- ・音楽鑑賞会、観劇会、保護者対象講演会の充実
- ・誕生会、夏祭り、の充実
- ・保育参観の改善

4、少子化対策として未就園クラスの拡大、充実

- ・ひよこクラブの改善
- ・未就園児教室の充実 .. 短大図書館(学童の部屋)を利用
音楽・体操・英語(1, 2 歳児の英語)
- ・『子育て相談会』、『読み聞かせの会』を新設 .. 短大図書館(学童の部屋)を利用
- ・説明会、見学会の改善

5、募集活動の充実

- ・説明会・見学会の改善
- ・保育体験会、人形劇鑑賞会、読み聞かせ、園庭開放等開催

7、預かり保育・課外教室の充実

- ・スイミングスクール (アーデルと提携)
- ・昭和小内部進学に向けて (幼児教室めえでと提携)
- ・卒園生対象 英会話教室を新設

8、園舎、園庭の整備 ... 補助金を利用した施設の整備

- ・トイレの床 改修
- ・ウッドデッキの改修
- ・施設の補修 (階段・扉レール等)
- ・園庭照明設置
- ・自然換気システム修理・エアコン洗浄